



新型インフルエンザへの対応について

九州大学は、新型インフルエンザの危機に備え、高等教育機関であり、人材を輩出すべき大学として、次世代を担う学生やその学生を育成する教職員の健康を保障することは責務であると考えています。

また、過去の世界的な大流行（パンデミック）であるスペインかぜが流行した際の米国平均余命がその前後と比較して15年減少していることを考えると、パンデミックの発生は、若い世代への影響が大きいことが特徴として考えられ、その後の社会基盤に与える影響は計り知れません。

九州大学は、アジアへの玄関口と言える福岡にある、アジアに開かれた大学として、新型インフルエンザの発生に備え、下記のとおりその対策・方針を打ち出しましたので、お知らせします。

I 予防のための取り組み

- 九州大学新型インフルエンザ対策本部を設置し、新型インフルエンザによる被害を最小限にとどめるため、本学の状況に応じた行動計画を策定し、新型インフルエンザの脅威から学生・教職員の健康を守り、安全・安心を確保するために本学がとるべき行動を示す。

◎九州大学新型インフルエンザ対策本部

本部長	: 総長
副本部長 (WG長)	: 安全衛生担当理事
〃	: 病院長
副本部長補佐	: 安全衛生推進室長
委員	: 教育担当理事
	: 情報担当理事
	: 総務担当理事
	: 病院総合診療科長
	: 高等教育開発推進センター長
	: 総務部長
	: 学務部長
	: 総務課長
	: 安全衛生推進室総括管理部門長

- 全学生・教職員に対し、「予防対策マニュアル」、「マスク」及び「注意喚起文」を配布し、学生・教職員の新型インフルエンザに対する予防意識の啓発とともに不安の解消に努める。
- 新型インフルエンザに関する最新かつ正確な情報を収集し、本学HP等において学生・教職員に当該情報を積極的に提供する。

II 発生時の取り組み

- 新型インフルエンザが海外で発生した時には、九州大学は速やかに休講準備および全校閉鎖に向けた準備を開始する。
- 国内発生時には休講とし、全学生に対し自宅待機を指示する。
また、教職員については、基本は全員自宅待機とし、最低限の業務維持のための人員のみ出勤させる。
- 福岡県内での発生が確認された場合は、全学生・全教職員の自宅待機を発令する。
- 全学閉鎖となって以降は、学生・教職員全構成員の安否情報を把握するよう努める。

III 九大病院における受入体制

- 初期の段階（感染が拡大していない場合：例えば、新型インフルエンザが海外で発生し、そこから帰国し感染の疑いがある場合など）では、まず福岡市立こども病院・感染症センターが受け入れることとなっている。
- その後感染が拡大し、福岡市立こども病院・感染症センターでは収容しきれなくなり、行政から要請があった場合は、九州大学病院でも受け入れることとする。（20床程度）。
- それ以上拡大した場合は、行政の指導のもとにいくつかの医療機関が新型インフルエンザの患者を引き受け、特定機能病院である九州大学病院ではその医療機関に入院している重症患者を引き受けることとしている。

お問い合わせ先

九州大学 総務部総務課広報室

電話：092-642-2106、7049

FAX：092-642-2113